

理解と支援のポイント

①困っているのは本人

- ・発達障がいは「わかりにくい障がい」
- ・できることとできないことの差が大きい。(誤解されやすい)
- ・本人の努力不足・保護者のしつけのせいではない。

②背景を探る

- ・様々な視点(特性・発達・環境など)で背景を探る。
- ・「乱暴」と一言と言われても・・・「わかっちゃいるけどできない」つらさ
- ・「できないこと」は悪いことなの?→やりやすくする方法が見つかっていないだけ。ちょっと工夫すればやりやすくなる。

③特性を理解する

※とらえ方・考え方・表現の仕方の特性を理解しましょう。

- ・【LD】 認知の困難さ→その子が得意なことやもっている能力が活用できる支援
- ・【ADHD】 自己コントロールの困難さ→正しい行動様式を身に付ける。動く前に思考するパターンを身に付ける。できているときに認め、望ましい行動を強化する。
- ・【高機能自閉症・アスペルガー症候群(自閉症スペクトラム障がい)】 社会性・コミュニケーションの困難さ、こだわり、感覚の特性→場の状況や人の心情・文脈の理解が困難、関係性の障がい、特定の刺激や感覚へのこだわり→関係性を理解しやすい方法で示す、不快な刺激を取り除き、情緒の安定を図る。
- ・本人が自分の得意なことや困り感(とその理由)について「自己理解」できるようにすること、困難さの解決方法がわかることが大切。

④苦手も得意に「リフレーミング」

※どの子ども「認められたい」「褒めてもらいたい」

- ・落ち着きがない→好奇心旺盛・行動力がある・活動的・新しい刺激に敏感
- ・こだわりが強い→意志が強い・信頼できる・職人気質

⑤5W1Hで具体的に

- ・×「はやく」「しっかり」「がんばれ」抽象的な言葉の励ましは逆効果。
「だめ」と言われても、何がどうだめなのかわからない。
- ・○「～を～しましょう」「〇時〇〇分までにやりましょう」「〇回やりましょう」

※ほめるとき、叱るときも同様。何がなぜよかったのか(いけなかったのか)がわかるように。そのためには「約束」があることが重要。

⑥「ないと困る」支援は、「あると便利な」支援

- ・すべての子どもが「できる」「わかる」ユニバーサルな環境づくりを
- ・落ち着いて生活ができる環境、見通しがもてる指示 など
例) 今日の日程・座席・物の置き場所・整理の仕方
活動の流れ・手順
困ったときの対処方法

⑦困った子は「指導者を成長させてくれる子」

- ・「支援してできる」から「支援がなくてもできる」ようにするためには?
- ・自分の苦手なところを知って、必要な支援を求めることができるようにするには?
- ・目に見えないもの、具体像が把握できないものをわかるようにするには?(例:相手の気持ち)